

あびの文化

発行人 美崎 大洋
美崎 我孫子市 高野山
250-23
04(7182)
0861

あけましておめでとうございます

会長 美崎 大洋

平素は当会の活動に格別のご協力をいただきありがとうございます。

会員の皆様、新しい年をどのように迎えましたでしょうか？昨年の日本列島は年末まで異常とも思われる気象状況が続きました。そのような中、当会は昨年も着実な活動を続けて参りました。

五月の文化講演会では我孫子市教育委員会文化スポーツ課 辻史郎氏を講師に迎え、『大光寺貝塚と三人の男たち 坪井正五郎・柳宗悦・村川堅固』というテーマで講演していただきました。大光寺付近にあった縄文時代の貝塚は現在、消滅しているため、その実態は謎に包まれています。明治後期から土器や貝を採集できる遺跡として認識されており、明治を代表する人類学者 坪井正五郎、白樺派の中心人物 柳宗悦、我孫子に別荘を構えた西洋史学者 村川堅固の3人もこの貝塚に大いに関わっていたとの興味深い話を聞くことができました。

恒例の「史跡文学散歩」、「放談くらぶ」も当会会員ばかりではなく毎回会員外の方の参加も多く当会の大きな柱になっています。

プロジェクト活動もそれぞれのプロジェクトが一段と特色を出して活動を続けました。

昨年五月の総会で、事業計画の中に今年度は特に「白樺派について積極的かつ継続的な研究」という項目を掲げました。二十五年前、当会設立の契機となった志賀直哉旧邸保存の精神に立ち返り、白樺派について改めて注目し勉強しようとの思いを込めました。具体的には昨年十月の市民活動「我孫子に来た白樺派の人々―その絆―」というテーマで展示し好評でした。

また今年から「白樺派と私」というテーマで皆さんにリレー連載をしていただきたいと思っておりますので宜しくご協力をお願いします。

プロジェクト報告会&懇親会を実施

十月三十一日(土)我孫子市南近隣センター(けやきプラザ9階ホール)でプロジェクト報告会が開催され、25名が参加した。当日は6プロジェクトの各担当から報告があった。今回は新しく会員になった方も多く参加され、各プロジェクトの報告にも熱が入った。懇親会でも初参加の方を中心に自己紹介の後、近況などを述べ合い会員同士の親睦を深めた。

□新年会開催のお知らせ

日時 平成28年1月10日(日) 17時〜
場所 「花膳」 我孫子駅北口
TEL(04)7179-0010
会費 3,000円
申し込み 1月7日 越岡まで
TEL(04)7184-2047
多くの方の参加をお待ちしています

リレー連載「白樺派と私」

「白樺」の美術志向

藤井 吉彌

今年が当会発祥の年に想いを馳せ、会員各位に首題の短文を寄せてもらう事になりました。僭越ながらトップバッターの拙文をご覧ください。

1910年4月(明治43)、若い学習院出身者が中心となり雑誌「白樺」が創刊された。当時与謝野鉄幹の主宰する「明星」等の文芸誌はあったが、「白樺」は文芸の他に、芸術家の評伝や論考、作品の図版などを掲載し、多く美術愛好家の関心を集めた。当時の「みづえ」、「美術新報」等の美術専門雑誌を上回る人気があった事は、その内容が若者の志向した欧米の印象派

作家を積極的に取り上げた点にある。また、当時の日本では、なじみの薄いロダンの紹介等、時代の先端を歩む方向性を示している。10年程前に訪れたロダン美術館の庭に広がる数々のロダンの名作を想いつつ、以下にA・ロダン(当時70歳)と有島生馬(28歳)の間に交わされた往復書簡を示す。

・1910年9月1日 有島↓ロダン(最初の手紙)

「白樺」であなたの特集を組むので、正確な誕生日を教えてください。更に出来れば肖像写真とメッセージを寄せて欲しい

・1910年10月12日 ロダン↓有島

誕生日の回答、自分のデッサンと浮世絵の交換を提案(有島の述懐:昨年9月だったと思う、仏国の消印のおしてある、驚嘆すべき1通の手紙が自分の所に届いた。ロダンと云う名前は凡ての物を引き付けるマグネットのように、方々に散らばっている同人を即座に吸合させた。)

・1910年10月30日 有島↓ロダン

写真と手紙が届いた事へのお礼と浮世絵を後日送るとの連絡。(送付までに10か月要した模様)

・1911年7月付け 同人連名の書簡↓ロダン

浮世絵30点同封、白樺同人から送付のサインあり

・1911年8月18日 ロダン↓有島

浮世絵に対するお礼と3点のブロンズ像を送る申し出、日本でのデッサン展の提案。

(生馬の感想:私にデッサンの1枚も送ってくれれば良いと思っていたが、難しいだろうと考えていた。それが3点のブロンズ像になり、予期出来ないほど喜んでくれていたと思った。)

・1911年10月25日 有島↓ロダン

ブロンズ像を送ってくれるとの申し出に対する謝意、デッサン展詳細に対する問い合わせ。

・1911年12月22日

(ブロンズ像を受け取った生馬の感想:ロダンをかかえて町を走る時の気持ちは実に経験した事のない程一種の強みを感じました。すいた客車の中に三つの包みを傍らに置いて座を占めた時、その彫刻を早く

見たいと言う誘惑が起りました。然し一人先に見るのは皆なに気の毒だと云う気がしています。自分はガマンしきれなくなつて、一番小さな包みをして、汽車の中で開けて了いました。)

1912年1月 有島↓ロダン

ブロンズ像3点受け取つたお礼。

1912年2月「白樺主催第4回美術展覧会」開催(ロダンの3点を出品)

「今度の展覧会は非常に景気がいい。ロダンの素描の展覧会は今から楽しみだ、待ちどおしくて仕方がない(無車3-3記載)

1912年5月3日 有島↓ロダン
与謝野鉄幹・晶子夫妻がパリに行くので会つてやつてほしいとの紹介状。

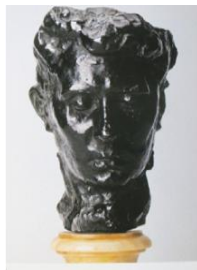
イタリ留学から帰朝した若い有島生馬の白樺派を背負つた心意気が感じられる。

ロダンから送られた3点のブロンズ像(白樺美術館より大原美術館に永久寄託)

ゴッキーの首



ロダン夫人



或る小さき影



注:現在、白樺博物館にはロダンの「鼻のつぶれた男」像が展示されている

第120回史跡文学散歩

「紅葉の自然教育園 上大崎寺町 池田山周辺

を訪ねる」

亀田 清隆

11月29日、天気は晴れ気温は低めだが風はなく、散歩日和である。今日の散歩コースはJR山手線目黒駅から五反田駅にかけての山手線内側のあまり広くないエリアである。江戸時代末期の古地図によれば、このあたりはほとんど田と畑、その中に大名の下屋敷と寺があるのみで町家はほとんどなく、さびしげな場所だったようである。当時、南から北へ、品川から赤坂・四谷への道が通っており、これが現在の目黒通りとなっているようだ。

十数年ぶりの目黒駅周辺は、東急目黒駅が真新しい大きなビルに、銀行の計算センターが高層ビルに変わつていたが、権之助坂の町並みは変わらず、トンカツ屋も堀プロ(和田アキ子、AKB48などが所属)も健在であった。

初の訪問地は国立科学博物館付属自然教育園、厳しい年齢チェックを受けたがほぼ全員無料で入園できた。都心一等地にちなみに住所は東京都港区白金台5丁目)広大で自然豊かな植物園があるのは驚きである。一般人が入れない所有者(高松藩松平家下屋敷、軍施設、皇室)が続いたため自然が残されたようである。

昼食後はお寺めぐり、住宅街の中に小規模な寺が数多く点在しており著名人の眠る地となつてい。いずれの寺も建物敷地の整備管理が行き届いており懐具合を思わせる。

次は品川区立池田山公園、ここも江戸時代大名下屋敷(岡山藩池田家)の一部、当時は前述の松平家下屋敷と同じ位の広さ(現在の品川区東五反田5丁目ほぼ全域)であったが、今の池田山公園は当時の10分の1以下の面積でありその他の区域は宅地などに分割されている。急坂の下に池を配した庭園に紅葉がきれいであったが、今年例年に比べて紅葉の鮮やかさがいまいち、とのことであった。

「ねむの木」の庭は品川区立公園として池田山公園近くの住宅街のなかにある。このあたりも池田家下屋敷の一部を宅地化したところであり、皇后陛下実家の正田家の住宅もこの一画にあった。皇后陛下は、ここから歩いて学校へ通つていたとのこと。庭中央にねむの木が植わっているがこれは庭園化した時に植えたものであり住んでいた時にはなかったとのこと。今年の5月に天皇皇后両陛下が来園したこと。その時の生写真を見せてもらったこと。訪れた時に居合わせた庭園管理スタッフからの貴重な情報であった。

はからずも、近くにあった二つの有力大名下屋敷の幕末から現在までの変遷とその姿を比べてみることにしたが、この見地からの考察も面白かった。



第121回史跡文学散歩のお知らせ

「中世、河村出羽守勝融が築城した芝原城址と、
関連の寺 法石院、古利根沼などを探索」

1. 日時 3月27日(日)9時、湖北駅改札口集合(小雨決行)

2. コース 湖北駅→石七観音→庚申堂→長光院→中峠庚申塔群→法石院→水神宮→待道大現→古利根沼→波除不動尊→芝原城址→順道塚→湖北駅

講師・ガイド 田中由紀氏(当会会員)
参加費 会員:無料 非会員:500円
申し込み 090-2667-2924

または(04)7149-9174 (田中まで)

(プロジェクト報告)

関東建築探訪第二十回

「明治の実業家が残した古建築の名園・三溪園」

稲葉 義行

秋も一段と深まり、朝晩の冷え込みに夜具を一枚余分に掛ける季節となりました。

今回の建築探訪は、十月二十日に、藤井相談役以下9名で、横浜にある横浜開港資料館及び三溪園を訪ねました。我孫子を9時に出発し、10時30分に横浜関内に到着。大栈橋傍にある横浜開港資料館(写真左)を見学しました。

ここは、嘉永7年アメリカのペリーが黒船で来日し、日米和親条約を締結した所です。館内の展示室には幕末から明治初年にかけての、小さな農漁村から開港場となった横浜の発展が当時の写真、絵画等で紹介されており、歴史の好きな方には一日いても飽きない資料がたくさん展



示してあります。特に、わたくしが興味を持ったのは、想像で描いたと思われる数点のペリー提督の肖像画です。どの顔も鼻の高い鬼のような人物になっていて、当時の日本人が、いかに西洋人を畏怖していたかが偲ばれました。

また、記念館の中庭に玉楠(タブ)の木があります。これは、開港時にあった玉楠の木が関東大震災等の火災で焼けてしまった後、その脇から伸びたものが成長し大木となったものだそうです。

昼食を挟んで、根岸駅からバスで三溪園に向かいました。バス停から三溪園までの道路は1キロメートル程の桜並木となっていて、春先は、さぞ見事な桜街道になるのではないかと、話しながら三溪園に到着しました。

三溪園は明治末から大正にかけて製糸・生糸貿易で財を成した横浜の実業家 原三溪(本名 富太郎)が「三之谷」と呼ばれる谷あいの地に造り上げた、広さ17万5千平方メートルの日本庭園です。私庭としていた内苑と明治三十九年に一般公開された外苑とかならっており、園内は京都や鎌倉等から移築した多くの重要文化財を含む歴史的建造物と四季折々の草花が配された名園となっています。

まず、ボランテニアの方の案内で内苑を見学しました。内苑の中央には、慶安2年(1649年)紀州藩初代藩主徳川頼宣が和歌山の紀ノ川沿いに建てた数寄屋風書院造りの別荘建築

である「臨春閣(重要文化財)」が配置されており、内苑は狩野派等の絵師による障壁画の複製(実物は苑内にある三溪記念館に保存・展示)や当時の洗練されたデザインが各所にみられました。

また、徳川家光・春日局ゆかりの楼閣建築である「聴秋閣(重要文化財)」、織田信長の弟の織田有楽の作といわれる茶室「春草庵(重要文化財)」あり、三溪が三井物産の益田孝や電力王の松永安左衛門等の財界の重鎮と茶会を開いた茶室など貴重な建築物が多く点在していました。

私たちを案内してくださいましたボランテニアの方は、大変勉強されており、貴重なお話も沢山

ありましたが、一生懸命説明するあまり話が飛躍することもあり、聞く者として何を説明されたか戸惑うこともありました。自分がその立場になったときには、十分気を付けなければと思います。

見学時間が一時間三十分と限られていたので、外苑はゆっくり見る時間がありませんでしたが、この様な素晴らしいところがあることが分かりましたので、後日、十分な時間をとって改めて訪問したいと思い、三溪園を後にしました。帰りは、バスで桜木町に出て、帰途につきました。

三溪園正門



我孫子市の巨木・名木を訪ねる会(第28回調査報告)

佐々木 侑

前回調査の7月9日以降、8月13日、9月10日と台風などの影響で雨に降られ2回に亘り巨木調査が中止となっていたが、早やくも神無月は寒露を迎えた10月8日(木)、ようやく秋晴れの下、湖北駅に9名(男性7名・女性2名)が集合し巨木名木調査が実施された。この時期、初秋の寒暖差は14℃(24℃と激しく、時折風の影響もあり不安定ではあったが、調査は快晴の秋空の下で快適に実施された。

当日の調査行程は

湖北駅北口9:00(出発)→伊勢山天照神社→中里通り中野家→湖北小学童跡地→湖北地区公民館→日秀観音寺→地藏院→将門神社→鎌倉道→中里市民の森→ボーイスカウト基地→中里諏訪神社→湖北駅南口(解散) 12:10

【行動時間:3時間時間10分、調査樹木本数13本・巨木本数12本(063-074)、参考樹木1本(034)】

伊勢山天照神社 (中峠 1,48)

祭神は大日靈賣命(おおひるめのみこと)、草創は古代にさかのぼる。日本武尊が東征の途次この地に天照皇太神の神籬(ひもろぎ)をたてて武運を祈願され、宮を奉祀(ほうし)した伝承あり。七郷(岡発戸・都部・中峠・中里・占部・日秀・新木)の総鎮守として崇敬されている。合祀は7社(寛政の頃1789~1800年)から七郷による奉納相撲が行われていた。境内には天正9年(1581)の作である「二十一仏武蔵石板碑」がある。

063、イチヨウ雌(樹高22.8m、幹周460cm)
イチヨウの実である銀杏が沢山落ちていたが、粒が大きな銀杏である。
064、スタジイ(樹高26.9m、幹周362cm)

中里通り中野家 (中里47)

中里宿通りと呼ばれ農村集落の豪農住居としての佇まいが残る。個人邸中野家の薬医門隅にスタジイの巨木がある(隣家の中野治房氏邸は元東大教授で植物博士、1973年没、煉瓦造塀の屋敷)。エノキの巨木は数十年前に枯死したそうであり古株も取り去られていた。

065、スタジイ(樹高14.4m、幹周380cm)

湖北小学校・学童跡地

066、スタジイ(樹高19.9m、幹周348cm)
日秀観音寺 (日秀90)

曹洞宗、慈愍山(じみんざん)観音寺。もと正泉寺末、創立は寛文2年(1662)、本尊は釈迦如来、霊場本尊は観音菩薩像である。将門の守り本尊の観世音蔵を安置している。国道に面した角には首を傾け成田方面から顔を背向けている地蔵が立っている。これは成田山が将門調伏の為に建てられた寺なので、成田は見えない・案内しない、とのことである。(相馬霊場第二十九番札所)

067、イヌマキ(樹高15.3m、幹周355cm)

《イヌマキは中国原産の常緑高木で「イヌ(犬)」には本物より劣るといふ意味があるが、イヌマキ材は高級建築材で特に桶に使用された》

地藏院・上新木青年館 (新木3,050)

真言宗豊山派、寿栄山地蔵院、無住。もと龍泉寺末、開山開基は不詳であるが墓碑から貞享3年(1686)以降と考えられる。本尊は地藏菩薩像。(相馬霊場第二十五番札所)

068、イチヨウ雌(樹高17.4m、幹周327cm)

将門公園・将門神社 (日秀131)

祭神は平将門、旧日秀村の鎮守。平将門は天慶3年(940)に戦死、その霊が手賀沼を騎馬で渡り沼のほとりの岡に登って朝日を拝したと云われるこの地に一字を建て、霊を祀り鎮守としたのが当社の起りといえらる。近くに将門が軍用に供したと伝えられる将門の井戸がある。

将門公園入口に平地ではあまり見られないニガキの樹がある。枝をかじつてみた処、長時間口の中が苦汁で辟易した。所縁の村民が将門の無念を偲び植樹した樹木であろうか?

069、スタジイ(樹高25.1m、幹周433cm)

070、タブノキ(樹高15.4m、幹周3株立540cm<211+177+145cm)

《タブノキはクスノキ科の常緑広葉樹、沿海地に多く暖帯植物の代表的樹木。昔は集落にタブノキの巨木がありその下での祭りなどの「こ神体」として利用された》

参考樹木 034、イヌマキ(樹高25.5m、幹周288cm)

中里市民の森ボーイスカウト野営基地 (中里635)

071、エノキ(樹高24.8m、幹周313cm)
太いツル状のキツタが巻付いている。

中里市民の森入口付近の鎌倉道脇

072、エノキ(樹高22.9m、幹周310cm)

《エノキの葉は日本の国蝶オオムラサキ(日本昆虫学会選定)の食樹である。昔は街道の一里塚に植えられたり、村落の入口に植えられたりして、天を衝く美しい姿が旅人の目印になった。》

中里諏訪神社 (中里667)

祭神は武御名方命(たけみなかたのみこと)・菅田別命(ほんだわけのみこと)、天正4年(1576)創建、本社は信濃諏訪大社。合祀は7社。中里村の鎮守社(土地を守る神様)で村民の寿命・祈願所・祭礼などの場としている。正月7日には御備射(おびしや)的を矢で射る神事がおこなわれる。

境内の樹木はエノキ・モミノキ・クスノキ・スタジイ・サワラ・シラカシ・ヤマザクラ・ヒサカキ・モッコク・ヤブツバキ、他で鎮守の森としてよく管理されている。

073、エノキ(樹高21.3m、幹周300cm)
074、クスノキ(樹高21.1m、幹周340cm)

参考樹木: 境内に「梅」との樹木表示版の樹木があるが「樅(モミノキ)」と判定した。

我孫子市の巨木・名木を訪ねる会(第2-9回調査報告)

佐々木侑

今年(2019)は11月12日から陰暦の10月だそう、小春日和と云う言葉をこの日から使用しても良いとの事。日溜りの暖かさが感じられる、まさに11月12日(木)に「小春日和ですな」の挨拶を交わしながら湖北駅に12名(男性9名・女性3名)が集合し、巨木名木調査が実施された。ちなみに、小春日和の事を北米では Indian summer(インディアンサマー)・英国では Old wives summer(老婦人の夏)と云う。

当日の調査行程は

湖北駅南口 9:00(出発) ↓ 中峠八幡神社 ↓ 正泉寺 ↓ 白泉寺・八幡神社 ↓ 都部八坂神社 ↓ 都部個人邸 ↓ 都部個人邸(幹周600cmのケヤキ) ↓ 庚申塚群 ↓ 宝岩院 ↓ 波除不動尊 ↓ 芝原城跡 ↓ 亀田森稲荷 ↓ 湖北駅北口(解散) 12:30

・行動時間: 3時間 時間30分 歩行数: 13000歩
・調査樹木本数: 10本 巨木本数: 6本 (075~080)
・参考樹木本数: 3本 (035~037)

中峠八幡神社 (湖北台 8-16)

祭神は菅田別命(ほんたわけのみこと)・速須佐之男命(すさのおのみこと)。

康平5年(1062)頃、八幡太郎源義家が奥州征伐のとき当地に宿営し白旗を残したとの謂れがある。境内に八幡公旗立ての松と呼ばれる樹齢千年の老松があったが明治初年に枯れたと云われる。本殿には見事な彫物がある。

参考樹木035、ヤブツバキ(樹高10.9m・幹周160cm)

ツバキは幹周200cm以上で巨木と判定するが、200cmないので参考樹木とする。

《椿は冬でも葉を落とさないいで霊力を持つためと信じられ、御神木とする神社もあり、神社には良く植え付けられている。》

正泉寺 (湖北台 9-12)

大龍山正泉寺、曹洞宗、本尊は延命地藏菩薩。

弘長3年(1263)、鎌倉執権最明寺入道北条時頼の息女女性尼(桐姫)草創の伝承があり、時頼を開基とする。相馬霊場第七十三番札所。現存する鐘楼門は幕末天保13年(1842)の建築。「女人成仏血盆経出現図」は千葉県指定文化財。

075、ムクノキ(樹高19.9m・幹周305cm)正泉寺東側公園内

《ムクノキの巨木は根が板状になり板根(ばんこん)と云う。昔は葉を乾燥させて木工品を磨く紙やすりに使われた》

参考樹木036、クスノキ(樹高23.6m・幹周280cm)

076、ユリノキ(樹高21.5m・幹周297cm)枝・頂上部伐採。

《ユリノキは北アメリカ原産で明治初年に渡来した。花の形がユリに似ているのでユリノキの名となる。別名チューチップの木とも云う。葉の形から半纏木・奴風の木・軍配の木とも云われる》

白泉寺・岡発戸八幡神社 (岡発戸 541)

万岳山白泉寺、曹洞宗、正泉寺末寺(隠居寺)で無住。草創は近世の初め慶長15年(1610)頃。明治初年から無住となった。境内に待道大権現を祀る。相馬

霊場二十二番札所

寺院家屋の裏庭に市の保存樹木のスタジイがあるが多数の小枝に覆われ調査不能であった。

岡発戸八幡宮神社は、正徳4年(1714)創立と伝えられる。白泉寺と境内を接している。

参考樹木038、アカガシ(樹高14.3m・幹周250cm)神社拝殿右手前。

《アカガシのドングリは全体の半分をハカマと呼ばれる殻斗(かくと)が覆っている。葉にはギザギザの鋸歯はない。》

白泉寺脇の崖下の小道に沿い、「八幡の井戸」入口近くに根本がむき出しの根張となったケヤキがある。参考木・珍木・ケヤキの巨大根張

都部八坂神社 (都部 46)

祭神は須佐之男命、応永3年(1396)建立と伝えるが境内に天明7年(1789)銘の燈籠があり当時造替が行われたとみられる。旧都部村の村社で6社合祀。鎮守の森にはイチヨウ・エノキ・スギ・ヒノキ・スダジイ・ヤブツバキ・シラカシ・シロなどが繁っている。

077、クスノキ(樹高31.4m・幹周390cm)参道左、

《クスノキは神社・公園などに広く植えられ巨木になる。木全体が香りよく虫除けとなり樟脳の材料である。樟脳を精製し防虫剤・防臭剤・強心剤とする》

個人邸・之氏邸 (都部 54)

不在により未調査の巨木あり。ケヤキ(樹高23.3m・幹周331cm)：昨年のデータ

個人邸・NE氏邸 (都部 93)

078、ケヤキ(樹高31.5m・幹周600cm)

我孫子市内のケヤキでは最大巨木のケヤキである。《樹齢400年、昭56・9・1我孫子市保存樹木指定》

庚申塔群 (中峠上地区、中峠台22付近)

庚申塔(庚申塚)は中国より伝来した道教に由来する庚申信仰に基づいて建てられた石塔のこと。人間の体内にいう三尸虫(さんしちゅう)とい

う虫が、寝ている間に天帝にその人間の悪事を報告しに行くのを防ぐため、庚申の日に夜通し眠らないで天帝や猿田彦や青面金剛を祀り、勤行をしたり宴会をしたりする風習の信仰。

スタジイが2本あるがその内の1本が巨木である。

079、スタジイ(樹高14.7m・幹周320cm)枝・頂上部伐採。

法岩院 (中峠 1561)

山号は祝融山、法岩院、曹洞宗、本尊は釈迦如来。

天文11年(1542)芝原城主河村出羽守勝融が開基相馬霊場五十一番札所、太子堂に上り龍・下り龍の彫刻あり。

境内に巨木はない。

古利根沼・波除不動尊

明治45年(1912)の利根川流路変更工事を取り残さ旧利根川の湖沼。江戸時代に利根川流水での崖崩落で悩まされたが不動尊安置で崩落が無くなったという伝承がある。「波除不動尊」と呼ばれている。

080、スギ(樹高22.6m・幹周300cm)

《波除不動尊祠の前から斜めに生えているが枝は垂直に延びている。普通のスギはすくすくと成長する「直木」すくきである。近時花粉症の元凶と嫌われているが建築材としては優れている》

12時30分、湖北駅北口に到着、第2-9回調査を終了した。反省会&昼食は近場の居酒屋風食道で美味しい和食を食したのち解散した。

千葉県観光ボランティアガイド協議会及び

第8回「ベイ・東葛飾地域連絡協議会・交流会」に

参加して

稲葉 義行

平成27年11月19日(木)、飯高・佐藤・渋谷・齋藤・牧田各氏と私の6名で参加しました。受付後、代表者は松雲亭にて代表者会議、他は松戸シティガイド

に案内され、国指定重要文化財・戸定邸を見学しました。

代表者会議は、ベイ・東葛飾地域のガイドの代表者の会議で、初めに、主催者である松戸シティガイドの代表者のあいさつ、続いて各団体の活動概要を簡単に報告しました。当会は、越岡代表が所用のため参加できませんでしたので、飯高さんが代理として参加、私がオブザーバーとして同席しました。

各団体の活動報告で、特に印象に残ったものは、流山市の活動で、当会が12月に実施する建物探訪でガイドをお願いしている「流山史跡探訪友の会」は、団体・個人に対するガイドを積極的に受け入れており、「NPO法人流山史跡ガイドの会」は市内の小・中・高等学校で史跡ガイドを課外授業として積極的に実施しているそうです。

また、新撰組流山隊はガイドではないが、新撰組の隊服を着て各種イベントに参加し、流山をアピールしているとのことでした。次回の当番幹事は「千葉県観光ボランティアガイド協議会」が船橋市、「ベイ・東葛飾地域連絡協議会・交流会」は市川市が担当することに決定し代表者会を終了しました。

その後、戸定歴史館館長の案内で、通常は入場できない国指定名勝「戸定邸庭園」を見学しました。千葉大学園芸学部百周年記念戸定ヶ丘ホールで昼食の後、交流会を行いました。交流会は、主催者あいさつ、観光協会等来賓あいさつに続き、参加団体の挨拶及び活動報告と松戸シティガイドの活動紹介等が行われ、終了後、四班に分かれ、松戸宿の実地ガイドになりました。

先ず、寛永3年創建、日本武尊祭神の松戸神社に案内されました。本殿の壁面には水戸光圀奉納の弓矢が架かり、手水舎の四柱には四神の彫刻があり、由緒ある神社でした。

次に本陣跡に行きましたが、そこには、共同住宅が建っていて碑があるのみでした。また、北辰一刀流の開



祖、若き日の千葉周作が門前に住んでいたと伝えられる宝光院には周作の剣の師、浅利又七郎及び周作の父親の墓が存在していました。

最後に、旧水戸街道沿いにある大正9年建築の米屋を市が買収して観光案内所により旧家の蘇戸式の大戸の説明を受け、終了となりました。

松戸シティガイドの女性の方に案内をして頂きましたが1グルーブが10数名となり交通量の多い場所のため、声が届きにくく、興が削がれることもありました。説明を受ける立場としては、案内の状況により軽量の拡声器を活用することも必要ではと思いました。

我孫子のいろいろ八景歩き

「布佐・新木・三大緑地公園コース」に参加して

飯高 美和子

11月22日(日)9時30分、布佐駅南口集合、参加者26名、関係者共々新木駅近くの気象台記念公園までの、4.5キロを秋晴れのなか楽しく歩きました。

コースは成田線に沿って新木駅方面へ、和太城跡(現在幼稚園)―竹内神社(柳田國男ほか我孫子の文化人が500本の桜を寄贈)―神社裏手の急坂を降りると―宮の森公園(公園八景・市制40周年記念切手・桜の木とメタセコイヤの大木)―まちなみ八景の布佐平和台の町並(庭庭の花々の手入れを観めつつ)―余間戸公園(我孫子の最古の土器出土)―勢至緑地(まちなみ八景)―安らぎの並木道(唐カエデ・ムサシノケヤキ)―終着、気象台記念公園(昭和13〜16年まで・布佐気象送信所、平成14年記念公園に)、解散12時ごろ。

我孫子のいろいろ八景歩き

「湖北台のまちなみと田園コース」に参加して

牧田 宏恭

我孫子市主催・我孫子の景観を育てる会運営の八景歩き(第2回)は、12月6日(日)湖北駅を9時30分過ぎに参加者約30名でスタート。色づきのピークは過ぎていたが、「湖北台中央公園」脇から「湖北台団

地」を通る「けやきの坂道」を觀賞。「手賀沼ふれあいライン」を抜け、「手賀沼干拓地」の歴史等の説明を聞きながら、「岡発戸・都部の谷津」の景観を楽しみ、四季の道経由、血盆経を納めた「正泉寺」を参拝。湖北台近隣センターで休憩、締めくくりに挨拶により終了。好天に恵まれた4時間弱の散歩であった。

なお、正泉寺は約3週間前にも当会のプロジェクト「我孫子の巨木・名木調査2-9回」にて散策したばかり。

(注)「我孫子のいろいろ八景」とは、総勢1,000人を超える市民がテーマ(公園)、「坂道」、「成田線車窓」、「町並み」、「ハケの道」、「斜面林・田園」、「桜」、「水」ことに応募した景観の中から選出された64景を4回に分けて散策する催しで、うち第1回に、飯高会員、第2回に牧田が参加。

あひこだより 68号

将門の王国を求めて(会報放談クラブへのガイド)

戸田 七支

鎌倉時代初期に書かれた保元物語に次のような記述がある。

「昔承平に将門が下総国相馬郡に都を建てて我身を平親王と号して、百官を種々になしおきたりけむ有様に……と書かれている。この将門が打ち立てた都とはどこにあったのであろうか?私達が住んでいる我孫子市は正に下総国相馬郡にスッポリ含まれている。

これまでにこの王国の所在地を究明しようとした試みはあまりなされていなかったし、また到達しえなかつたようである。

私はこの地方に長く伝えられているある寓話からそのヒントを得た。「天慶三年敗死した将門主従七騎の霊は対岸の手賀村明神下より騎馬にて手賀沼を乗り切り、湖畔の岡陵に登り、朝日の昇天するのを拝した。後に村人がその地に一字を奉祀した」と言うものであ

る。一見荒唐無稽な寓話に思えるが、それを村人の切なる願望の現れであると解すると様子は一変する。将門の主従がたとえ靈魂になつても戻つてきて欲しい場所が将門社である、とすればそこが将門の王国、本拠地ではないか。このように考えると、湖北日秀地方に残る数々の伝説が真実をもつて甦つてくる。それらは全て王国の存在そのものを示すものばかりである。

成田山新勝寺の草創の縁起は将門の乱に際し、朝廷が公津ヶ原に奉幣使を派遣し、平伏を祈らせた。そして乱が治まり京へ戻ろうとしたが、持参したお不動様が文字道理、動こうとしないため、そこに祠を建てた、それが成田山草創の縁起と言われている。しかし疑問が残る。何もない原野にお不動様を持ち込み祈禱させたとは信じがたいことである。何か奉幣師を受け入れる寺社があつたのではないか？

近年、成田ニュータウン開発中に大寺と書かれた木簡が出土している。成田山以前に或るお寺の存在が考えられる。

西嶋定生東大教授文学博士が20年近く我孫子に居住し1998年に亡くなられています。長い間市の歴史部門を指導され、その功績は大なるものであるが、私がこれまで述べてきたことを全て否定するもので、困惑している。いずれが真実を捉えているかご判断を委ねたい。

プロジェクト報告「百人一首を楽しむ会」

美崎 大洋

百人一首には恋の歌が沢山ある。百首のうち四十三首が恋の歌とされている。現代のように気軽にメールや電話で話ができない分、三十一文字に込められた想いは限りなく熱いと言える。

四十三首の恋の歌を取って分類すると、「逢はざる恋」「忍ぶる恋」「恨むる恋」「後朝―きぬぎぬ―」「逢ひて逢はざる恋(逢瀬を遂げたのち、逢い難くなった恋)」「忘るる恋・忘らるる恋」「別るる恋」などに分けられる。

ところで三十一文字の中に「恋」という文字がないのに熱い思いを歌った歌がある。淡々と歌っているから却つて見逃してしまう。次の歌がその例である。

音に聞く 高師(たかし)の浜の あだ波は かけじや
袖のぬれもそすれ

【現代語訳】噂に高い、高師(たかし)の浜にむなしく寄せ返す波にはかからないようにしておきましょう。袖が濡れては大変ですからね。(浮気者だと噂に高い、あなたの言葉なぞ、心にかけておきましょう。後で涙にくれて袖を濡らしてはいけませんから)

見せばやな 雄島の海人の 袖だにも ぬれにぞぬれし
色はかわらず

【現代語訳】あなたに見せたいものです。松島にある雄島の漁師の袖でさえ、波をかぶつて濡れに濡れても色は変わらないというのに。(私は涙を流しすぎて血の涙が出て、涙を拭く袖の色が変わってしまいました)

我が袖は 潮干に見えぬ 沖の石の 人こそ知らね
かわく間ぞなき

【現代語訳】私の袖は、引き潮の時でさえ海中に隠れて見えない沖の石のようだ。他人は知らないだろうが(涙に濡れて)乾く間もない。

瀬を早み 岩にせかかる 滝川の われても末に
あわむとぞ思ふ

【現代語訳】川の瀬の流れが速く、岩にせき止められた急流が2つに分かれる。しかしまたひとつになるように、愛しいあのひと今は分かれても、いつかはきっと再会しようと思っている。

やすらはで 寝なましものを 小夜ふけて かたどく
まの 月を見しかな

【現代語訳】(こんなことなら)ぐずぐず起きていずに寝てしまったのに。(あなたを待っているうちにとうとう)夜が更けて、西に傾いて沈んでいこうとする月を見てしまいましたよ。

一方、明らかに恋の歌と分る歌もある。

しのぶれど 色に出にけり わが恋は ものや思ふと
人の問ふまで

【現代語訳】私の恋の気持ち、誰にも知られないようにじつと包み隠してきましたが、とうとう顔色に出してしまったようです。恋に悩んでいるのですかと、人が尋ねるほどに。

うらみわび ほさぬ袖だに あるものを恋にくちなむ
名こそをしけれ

【現代語訳】恨んで恨んで恨む気力もなくなり、泣き続けて涙を乾かすひまもない着物の袖さえ朽ちてぼろぼろになるのが、惜しいのに、さらにこの恋のおかげで悪い噂を立てられ、朽ちていくだろう私の評判が惜しいのです。

玉の緒よ たえなば たえね ながらば 忍ぶることの
弱りもぞする

【現代語訳】我が命よ、絶えてしまうのなら絶えてしまえ。このまま生き永らえていると、堪え忍ぶ心が弱つてしまふと困るから。

いまはただ 思ひ絶えなむ とばかりを人づてならで
言ふよしもがな

【現代語訳】今となつては、あなたへの想いをあきらめてしまおう、ということだけを、人づてにはなく(あなたに直接逢つて)言う方法があつてほしいものだ

こぬ人を まつほの浦の 夕なぎに 焼くやもしほの身
もこがれつつ

【現代語訳】松帆の浦の夕なぎの時に焼いている藻塩のように、私の身は来てはくれない人を想って、恋い焦がれているのです。

ありま山 あなの笹原 風吹けば いでそよ人を 忘れ
やはする

【現代語訳】有馬山の近くにある猪名(いな)にある、笹原に生える笹の葉がそよそよと音をたてる。まつたく、そよ(そよよ、そよですよ)どうしてあなたのことをお忘れりするものですか。

文学掲示板

平成28年1月展示作品(文学の広場)

かつての日手賀沼近くに志賀直哉

水清き故住みたりと聞く

印西市 吉川 春雄

冴えざえと手賀沼に秋は深みたり

群れゆく鴨の水輪ひろげて

寿 若月 慎爾

夕立の過ぎにしあとの蝉しぐれ

水面にひびく古利根の淵

中峠 若村 道明

弾圧され苦しむ人らに歌をもて

愛を贈りき柳兼子は

天王台 三谷 和夫

五十年あこがれ続けしドロミテの

岸壁(かべ)を登りて欣喜雀躍

寿 藤井 吉彌

わらべ歌サトウハチロー作と聞く

うたう幸せつくる幸せ

高野山 美崎大洋

今後の行事予定

□放談くらぶ開催案内

日時 平成28年2月6日 14時〜16時

場所 あびこ市民プラザ(あびこシヨップینگプラザ

3階)

講師 戸田 七支氏

演題 将門の王国を求めて

参加費(会員無料 非会員300円)

「天慶3年敗死した将門主従七騎の霊は、対岸の手

賀村明神下より騎馬にて手賀沼を乗り切り、朝日の昇天するのを拝した。後に村人がその地に一字を奉祀した」...

将門の主従がたとえ靈魂になつても戻つてきて欲しい場所が将門社であるとすれば、そこが将門の王国、本拠地ではないか。このように考えると、湖北日秀地方に残る数々の伝説が真実味をもつて甦ってくる。：乞うご期待。

□第121回史跡文学散歩のお知らせ

「中世、河村出羽守勝融が築城した芝原城址と、

関連の寺 法岩院、古利根沼などを探索」

日時 3月27日(日)9時、湖北駅改札口集合

(小雨決行)

◎コース・費用その他 詳細は本会ホームページ参照

プロジェクト開催案内

□我孫子市の巨木・名木を訪ねる会(21回)

日時 1月21日(木) 9時 我孫子駅北口ロータリー

東武ストア入り口前集合

(新木・下ヶ戸地区他 調査予定)

当会の最近の動き(報告、予定)

(報告)

□放談くらぶ

日時 予定 12月6日(日)14時〜16時

会場 我孫子北近隣センター(並木)第3会議室

講師 伊藤 一男氏

演題 「幕末の密航留学生の足跡を訪ねる...」

若き志士たちが築いた日英交流の歴史」

□第25回 手賀沼ふれあい清掃作業報告

斎藤 清一

日時 平成27年12月6日

集合場所 手賀沼公園多目的広場(当日参加人数553名)

開会式：9時、清掃作業 9:15〜10:30 AM

清掃作業コース：A、Bの2コース

当会員参加人数：5名(Aコース：根戸新田コース)

(予定)

□役員会のお知らせ

日時 1月10日(日) 14時〜

場所 けやきプラザ10階 大会議室

□放談くらぶ

日時 未定(4月9日頃)

会場 未定

講師 三谷 和夫氏

演題 「白権派と美術館...志をつぐ物語...」

□入会員紹介

岡嶋 敏枝、塚本 好雄 以上2名の方が

入会されました。

□お願い

本年度会費(二千元)納入のお願い、

本会はひとえに会員皆様方の会費により運営されています。左記の口座宛、至急お振込みください。

郵便振替口座 (00190-3-136476)

『我孫子の文化を守る会』

なお、前年度以前の会費を未納の方は、併せてお振込みいただけます様重ねてお願いいたします。

編集後記

昨年末に、『安』の一字で一年を総括したとの発表がありました。が、実際は気候の不安始まり、『想定外』という文字が飛び交い、事件・災害も多く、先が見通せない『不安』『不安定』な年で締めくくられたように強く感じます。会員の皆様はどのように感じていらっしゃるか。

本年はどんな文字で表されるのか。文字はとも角、『安寧』な一年で、ありますように祈りたいと思います。

会報作成に携わって半年。まだまだ、紙面の構成・校正など未熟ではありますが、ご意見をいただきながら努力する所存です。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(牧田)